

こども・子育て支援に関するニーズ調査等結果について

◆調査の目的

大阪市では、「次世代育成支援対策推進法」に基づく計画と「子ども・子育て支援法」に基づく計画を一体のものとして、「大阪市こども・子育て支援計画（平成27年度～平成31年）」を策定し、次代の大阪を担うすべてのこども・青少年が、安全で安心な環境の中で育ち、豊かな心をはぐくみながら、個性や創造性を発揮し、いきいきと自立して生きる社会、こどもを生ま育てることに安心と喜びを感じることのできる社会を、市民と協働し、社会全体で実現することをめざし、総合的なこども・子育て支援施策を推進している。

令和2年度から始まる新たな「こども・子育て支援計画」を策定するにあたり、こども・子育て支援などに関する施策の必要量や施策に対する意向を把握するために就学前児童、就学児童を対象にした調査を実施し、また、若者がおかれている状況や今後の展望について正確にとらえることが必要であると考え、若者の生活実態や将来の生活設計に関する意識について若者を対象にした調査を実施し、計画策定の基礎資料とするものである。

こども・子育て支援に関するニーズ調査等結果（就学前児童）について

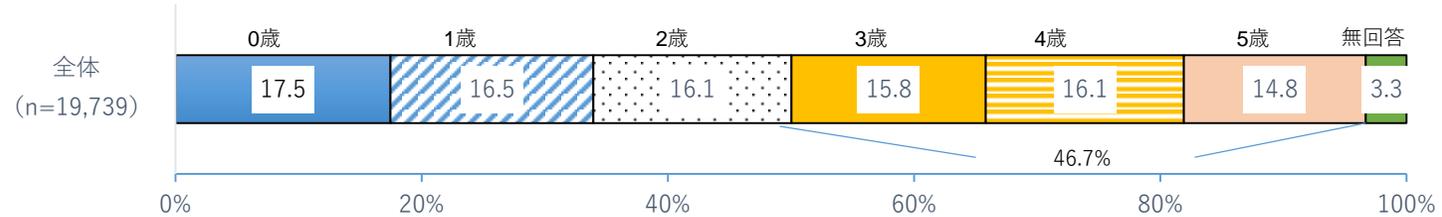
◆調査方法と回収状況

| | |
|------|---|
| 実施調査 | 大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査 |
| | 就学前児童用 |
| 対象者 | 市内に在住する就学前児童（0～5歳児）の保護者 |
| | 住民基本台帳等から無作為抽出した48,000人 （ただし、きょうだいで抽出された家庭については、複数の調査票が届かないよう調整したため、調査票送付数については、44,116通） |
| 調査方法 | 調査対象者に調査票を郵送により配布し、郵送により回収。 |
| 調査期間 | 平成30年11月30日～12月21日 |
| 回収状況 | 有効回答数 19,739（有効回答率 44.7%） |
| | （平成25年調査）調査対象数 24,000人 有効回答数 10,840（有効回答率45.1%） |

回答家庭のプロフィール

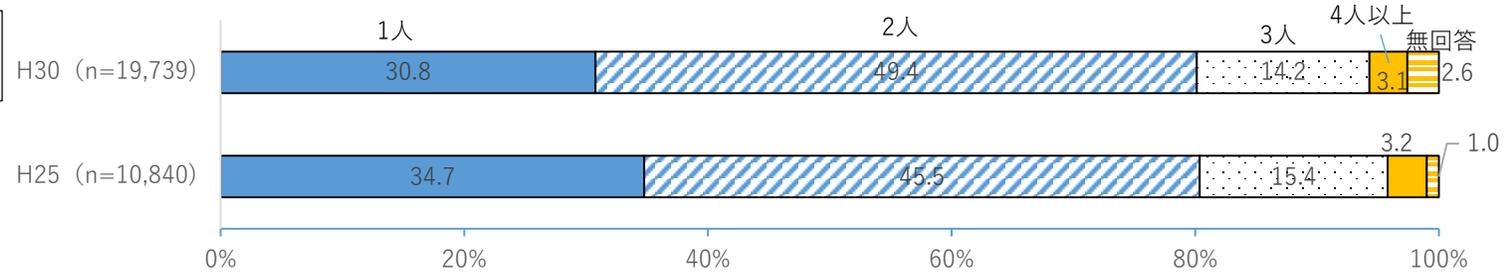
▶ あて名のこどもの年齢（平成30年4月1日基準）は、全体の回答数19,739件のうち、「0歳」が17.5%で最も多く、次いで「1歳」が16.5%、「2歳」が16.1%、「3歳以上」が46.7%となっている。

年齢別割合（H30）



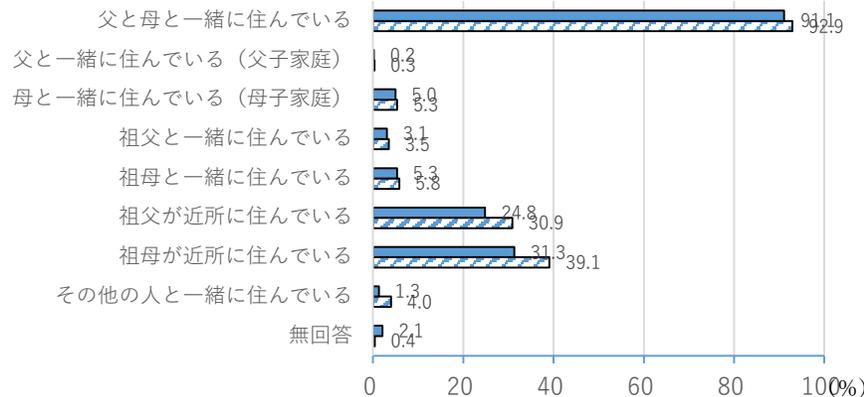
▶ こどもの人数は、「2人」が49.4%で最も多く、次いで「1人」が30.8%、「3人」が14.2%となっている。
▶ 平成25年度調査の結果と比べると、「2人」の割合が高くなった一方で、「1人」の割合が低くなっている。

こどもの人数（H30-25比較）



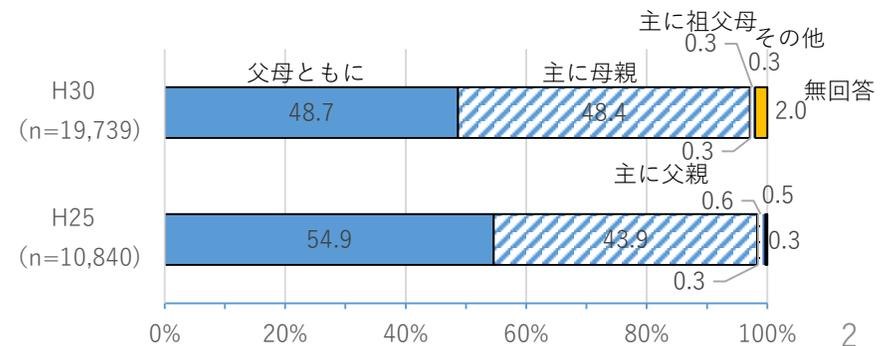
▶ 家族との同居・近居の状況は、91.1%が父母と一緒に住んでおり、「祖母が近所に住んでいる」が31.3%、「祖父が近所にすんでいる」が24.8%となっている。
▶ 平成25年調査の結果と比べると、「祖母が近所に住んでいる」、「祖父が近所に住んでいる」の割合が低くなっている。

家族との同居・近居の状況（H30-25比較）



▶ あて名のこどもの子育てや教育を主にしている人は、「父母ともに」が、48.7%で、「主に母親」が48.4%となっている。
▶ 平成25年度調査の結果と比べると、「父母ともに」の割合が低くなっている一方で、「主に母親」の割合が高くなっている。

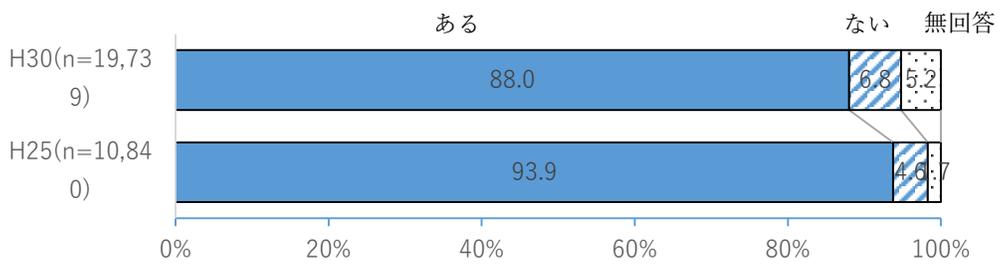
あて名のこどもの子育てや教育を主にしている人（H30-25比較）



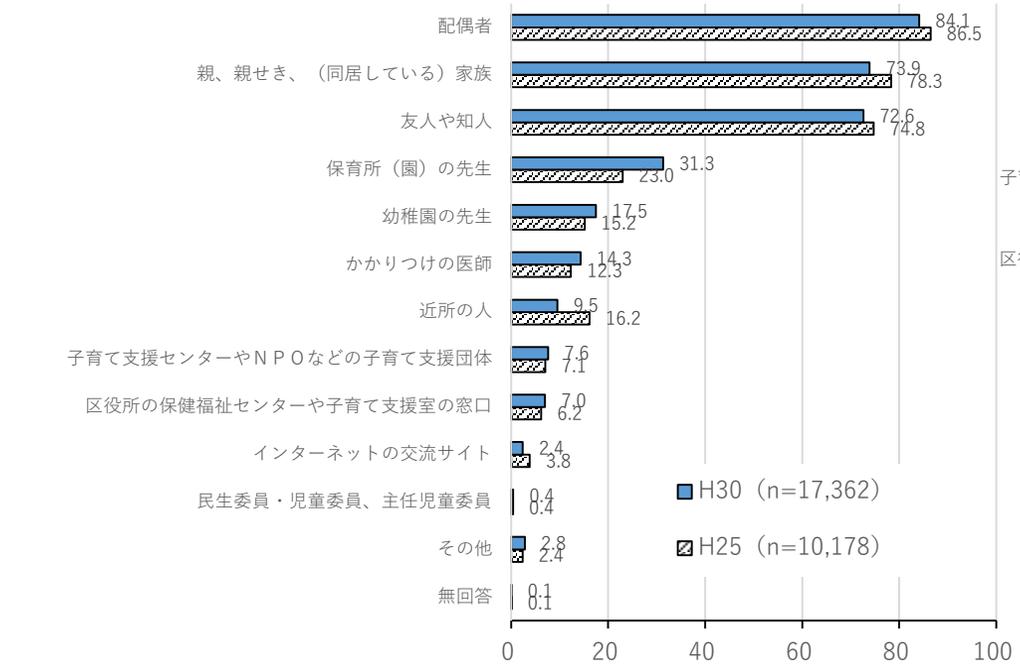
子育てや教育について気軽に相談できる場所の有無

- 子育てや教育について気軽に相談できる場所の有無については、「ある」が88.0%、「ない」が6.8%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「ある」と回答した割合が低くなっている。
- 相談先は「配偶者」が最も多く、次いで「親、親せき（同居している）家族」「友人や知人」が多い。
- 平成25年調査の結果と比べると、「保育所（園）の先生」「幼稚園の先生」の割合が高くなっている。

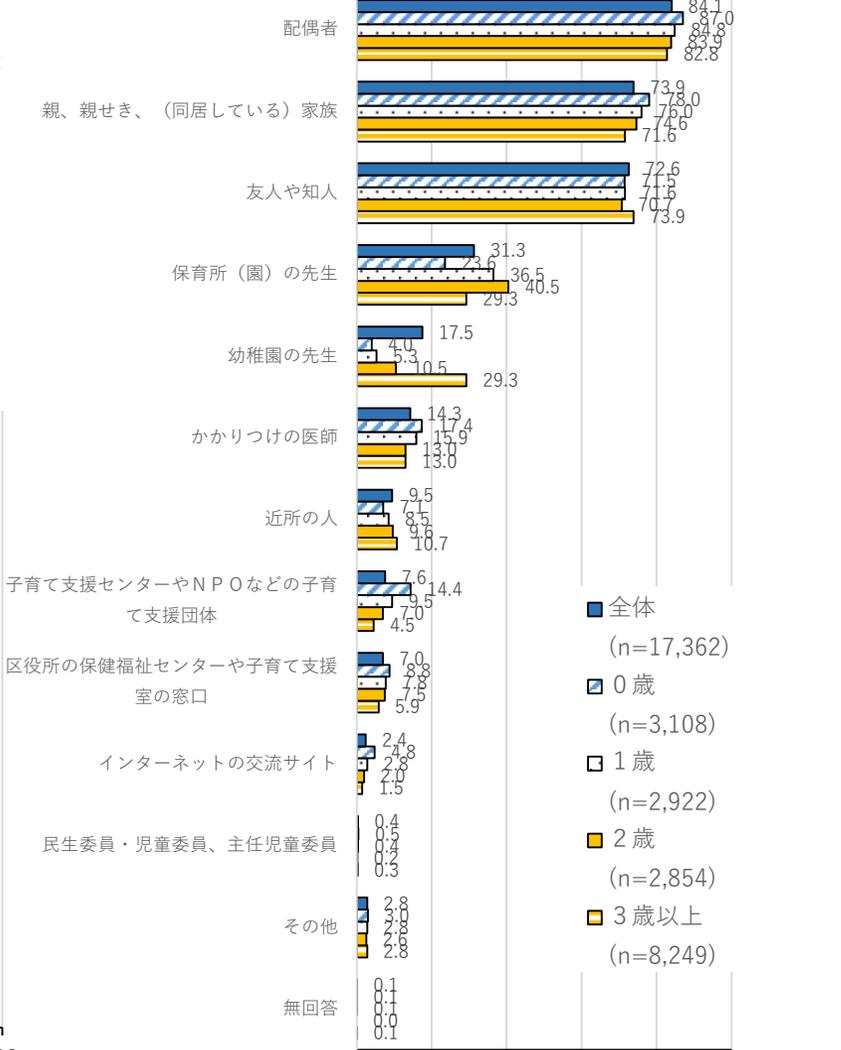
気軽に相談できる人（H30-25比較）



相談先（H30-25比較）



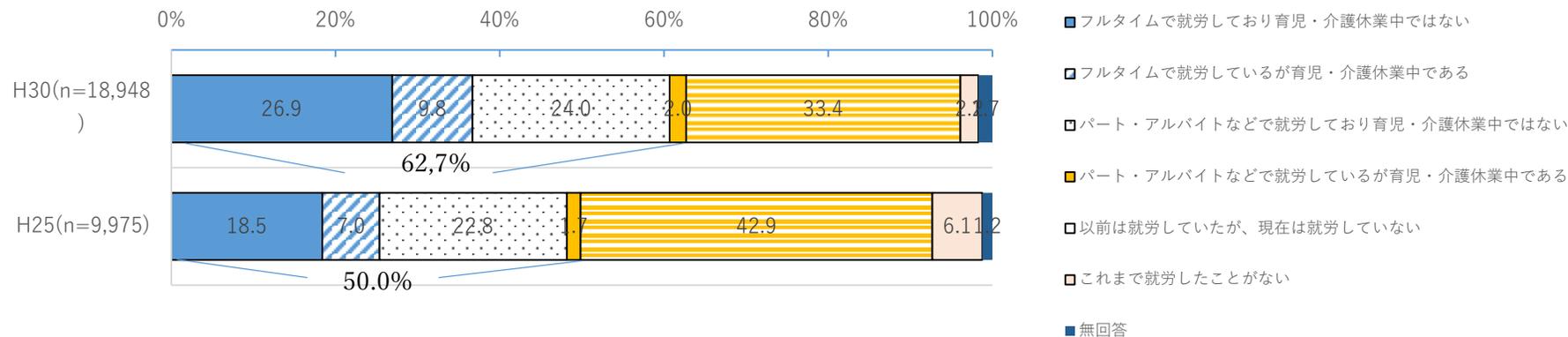
相談先（H30）



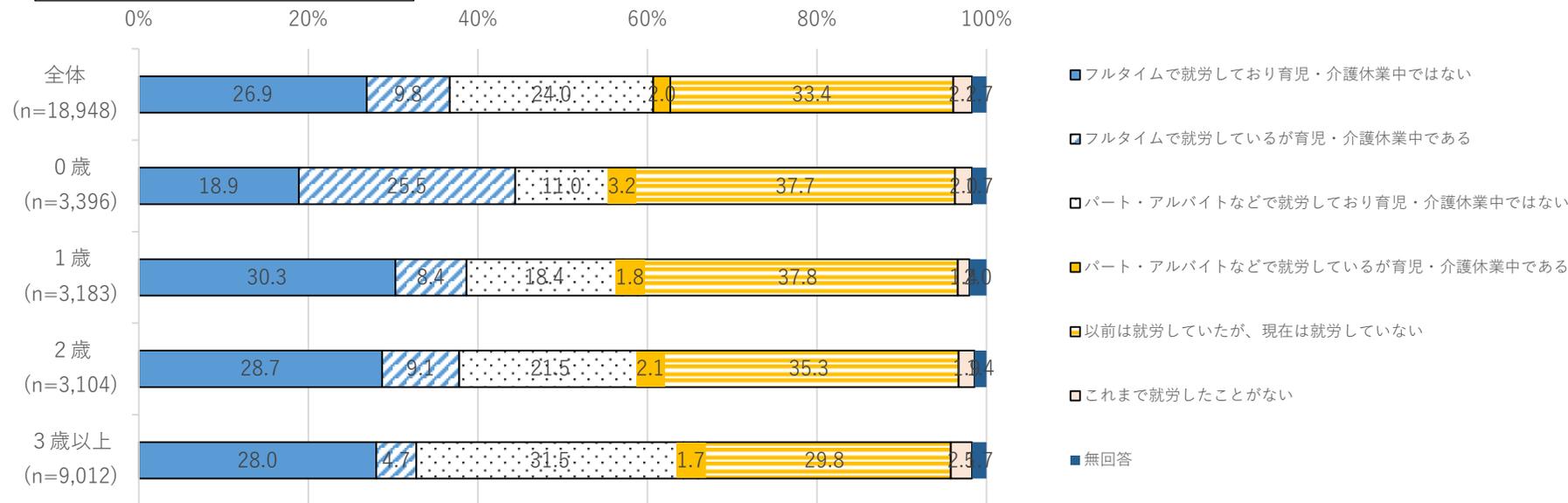
母親の就労状況①

- 母親の現在の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が33.4%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており育児・介護休業中ではない」が26.9%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、フルタイム、パート・アルバイトなど就労（育児・介護休業中含む）している割合が高くなっている。（平成25年:50%、平成30年：62.7%）
- こどもの年齢別でみると、「フルタイムで就労しているが育児・介護休業中である」は0歳（25.5%）で最も高く、「パート・アルバイトなどで就労しており育児・介護休業中ではない」は3歳以上（31.5%）で最も高くなっている。

母親就労状況（H30-25比較）



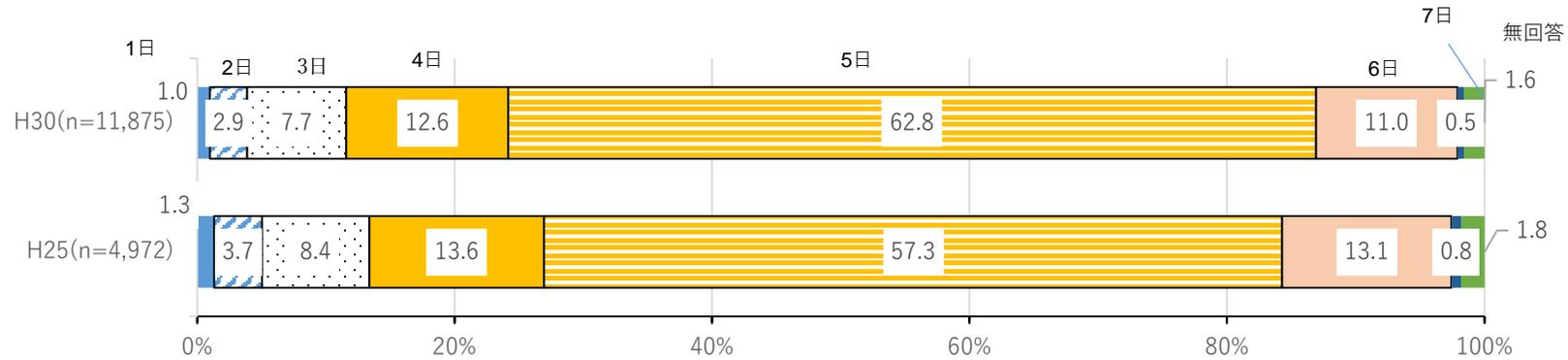
母親就労状況（H30 年齢別）



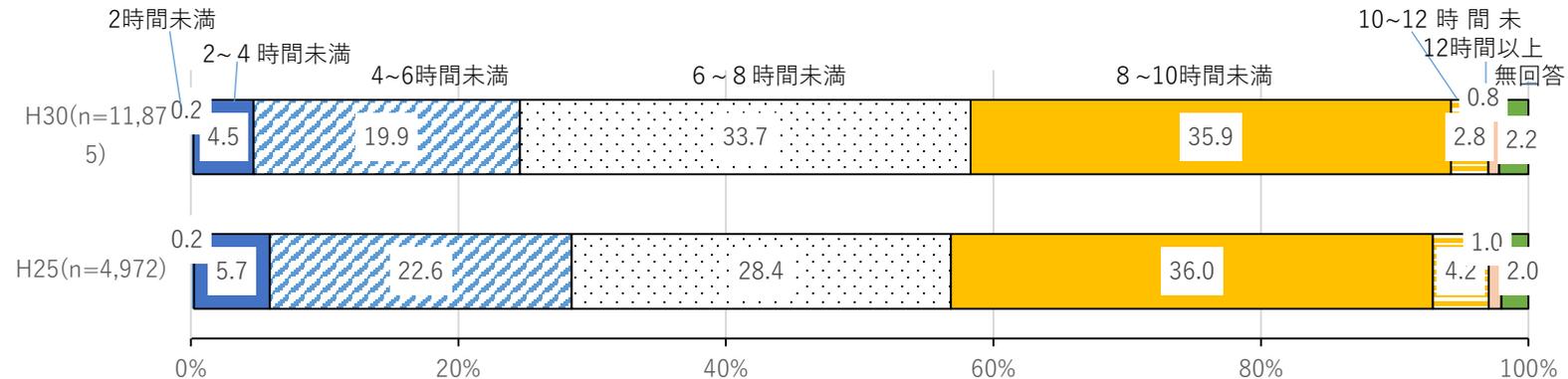
母親の就労状況②

- 母親の週あたりの就労日数について、平成25年調査の結果と比較すると「週5日」の割合が高くなっており、1日当たりの就労時間について、平成25年調査の結果と比較すると「4～6時間未満」の割合が低くなった一方、「6～8時間未満」の割合が高くなっている。

母親週当たり就労日数 (H30-25比較)



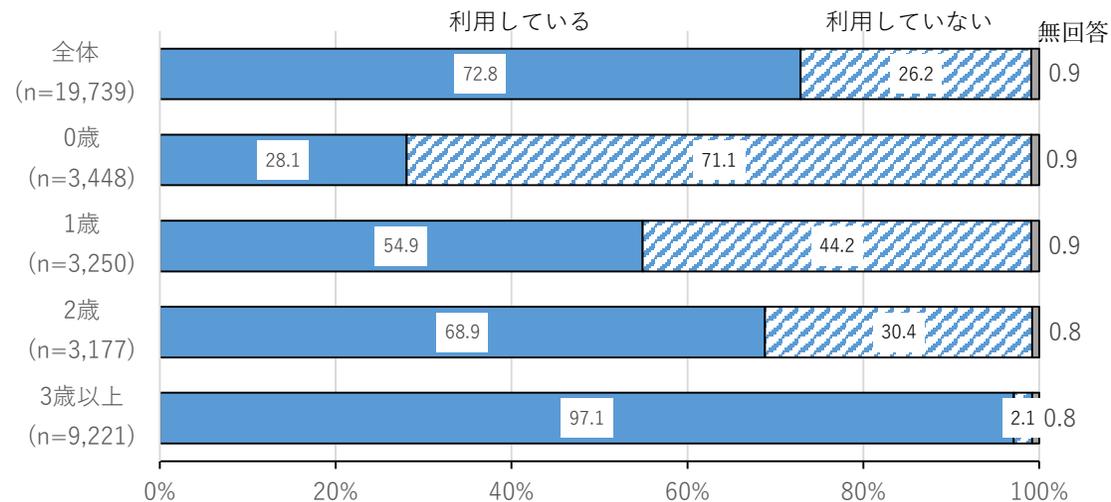
母親1日あたり就労時間 (H30-25比較)



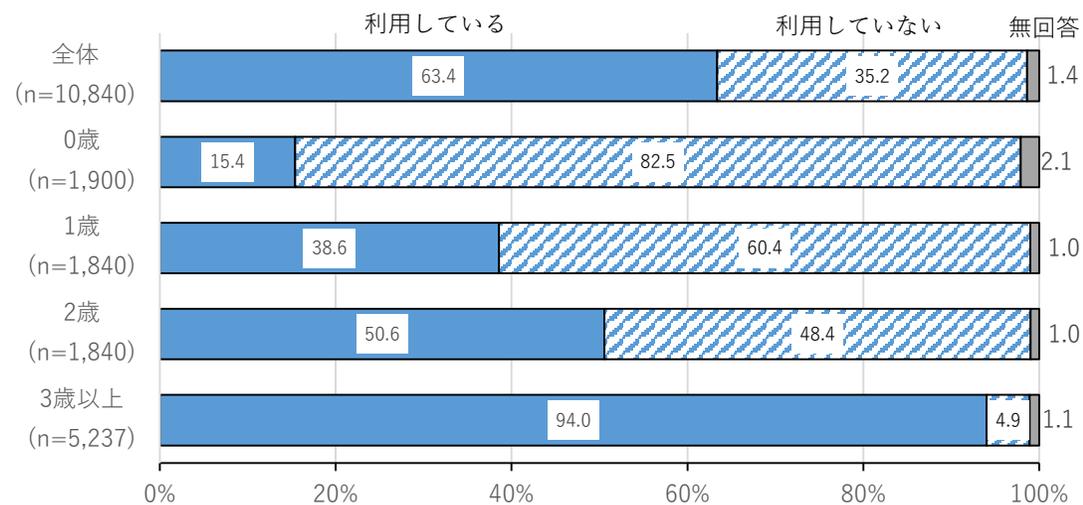
こどもを預かる施設やサービスの平日での定期的な利用状況

- こどもを預かる施設やサービスの平日での定期的な利用状況については、「利用している」が72.8%、「利用していない」が26.2%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「利用している」は年齢が上がるほど高くなり、3歳以上で97.1%と高くなっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、利用している割合は、0歳で12.7ポイント、1歳で16.3ポイント、2歳で18.3ポイント高くなっている。

平成30年調査

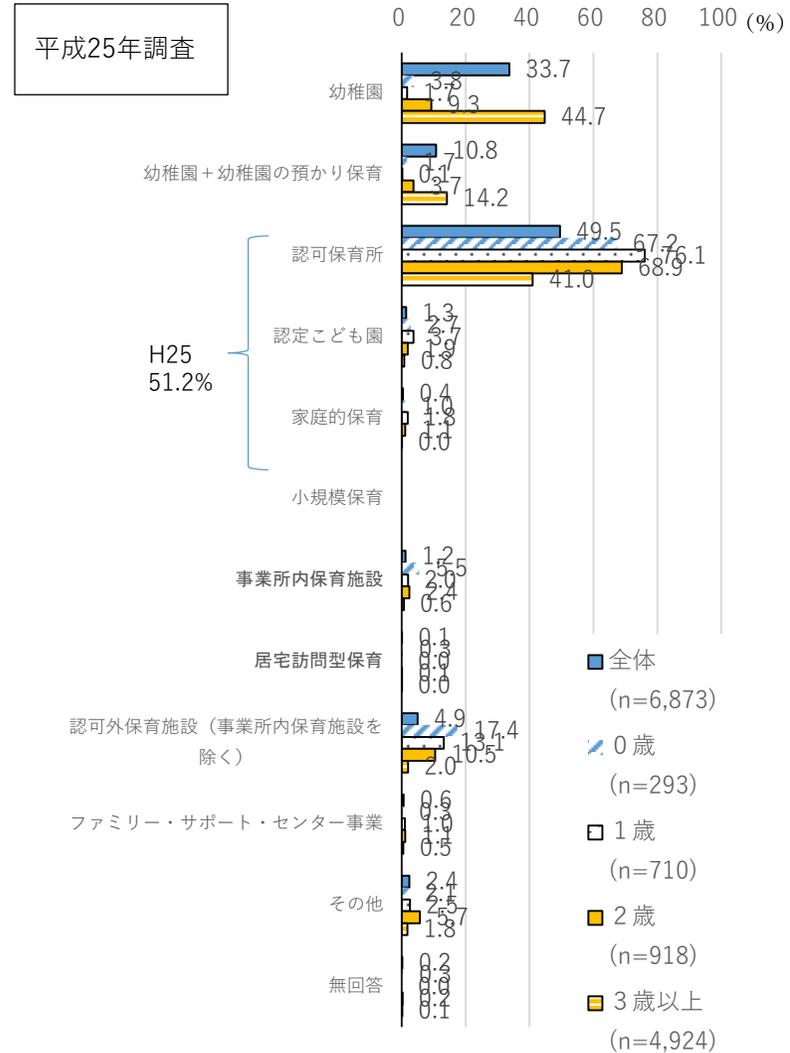
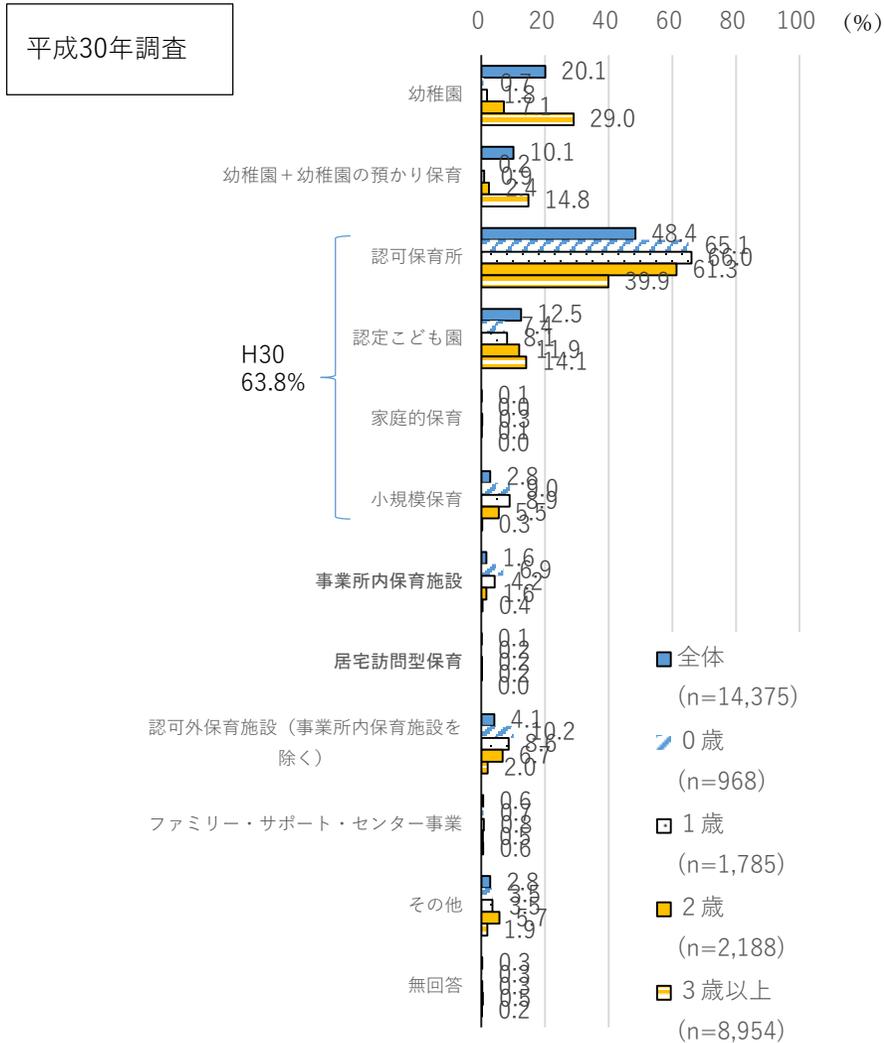


平成25年調査



平日に定期的に利用しているサービス

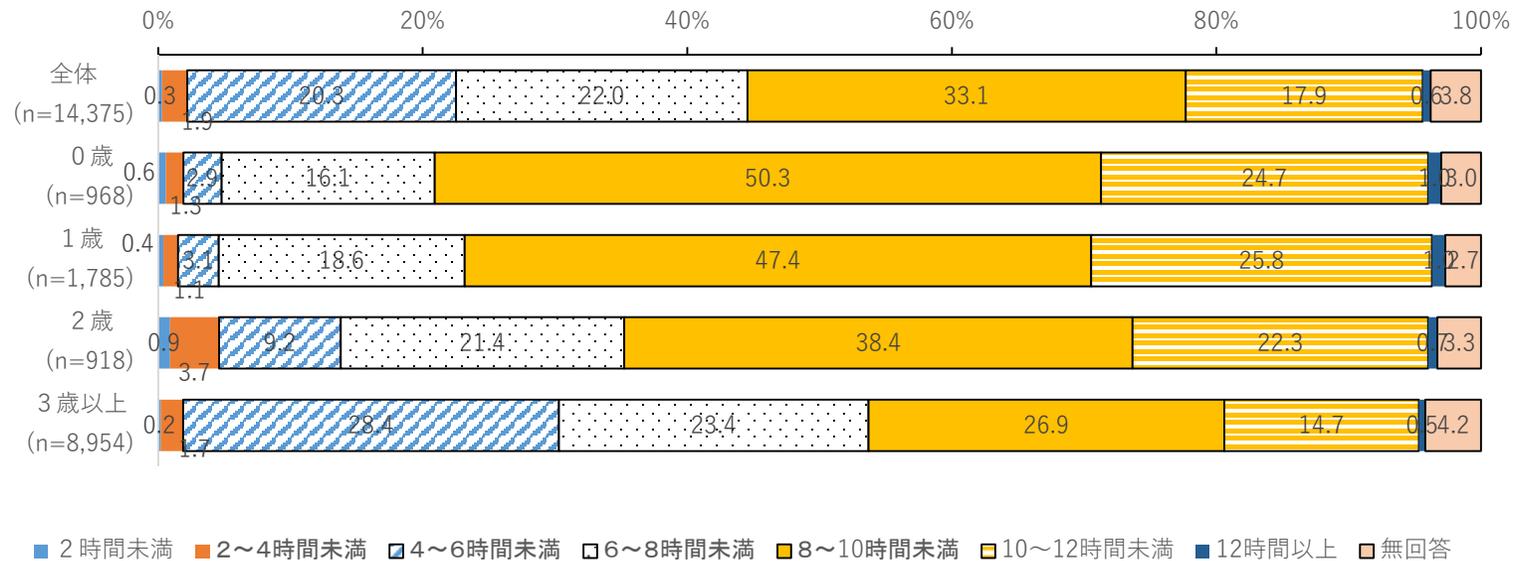
- 平日に定期的に利用しているサービスは、「認可保育所」が48.4%で最も多く、次いで「幼稚園」が20.1%、「認定こども園」が12.5%となっている。
- こどもの年齢別でみると、いずれも「認可保育所」が最も多く、0歳～2歳で60%を超えている。
- 平成25年調査では、認可保育所、認定こども園、家庭的保育の合計が51.2%であるのに対し、今回調査では、認可保育所・認定こども園・家庭的保育に小規模保育を加えた合計が63.8%となり、前回に比べ10ポイント以上高くなっている。



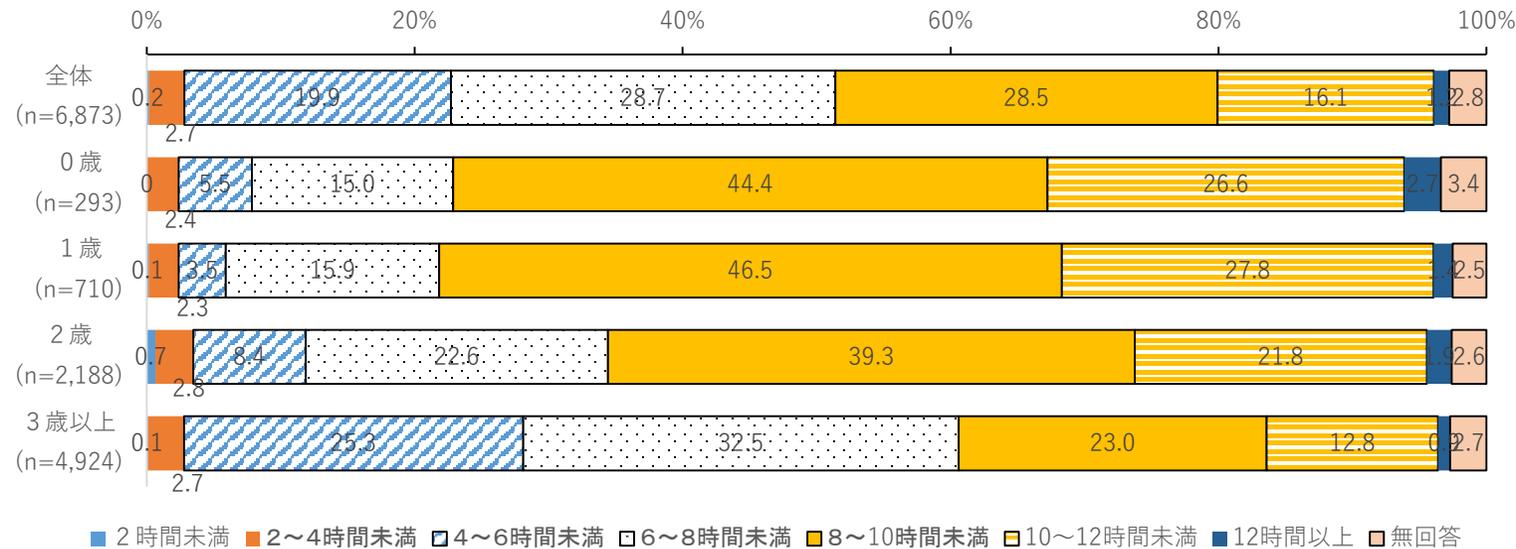
1日あたりの施設やサービス利用時間

- 1日あたりの施設やサービスの利用時間は、「8～10時間未満」が33.1%で最も多く、次いで「6～8時間未満」が22.0%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「8～10時間未満」は0歳（50.3%）で最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、0歳児の「8～10時間未満」が5.9ポイント高くなっている。

平成30年調査



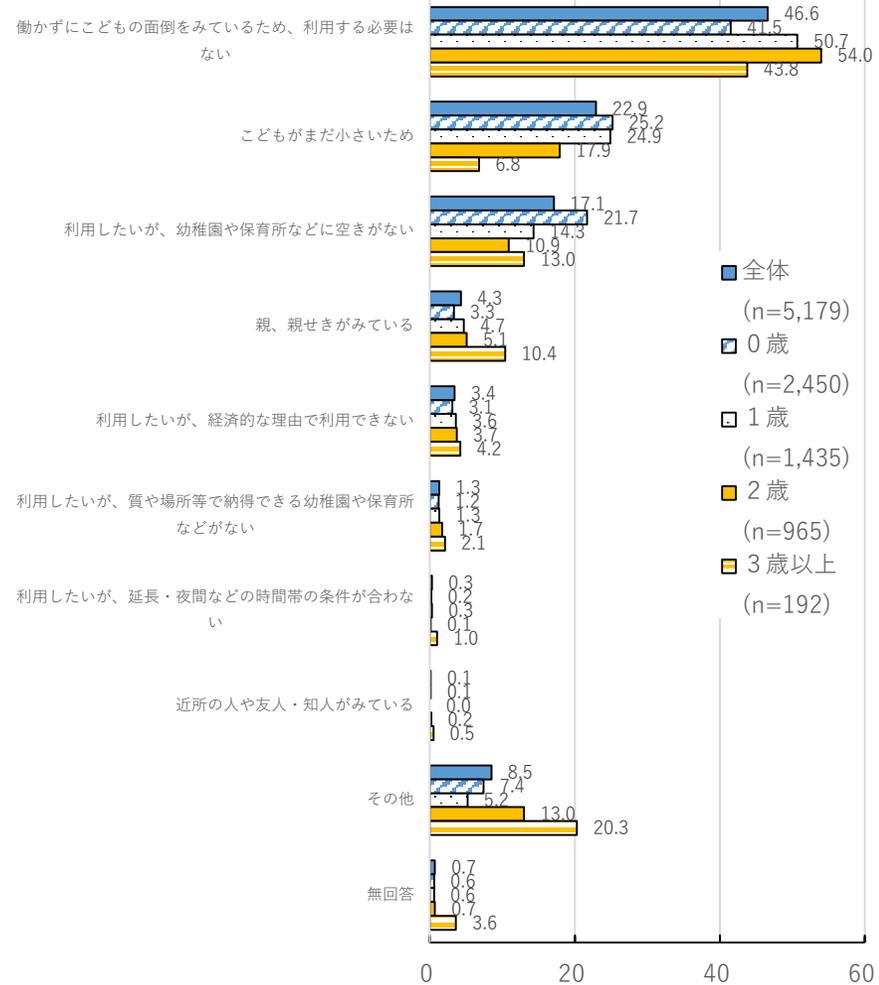
平成25年調査



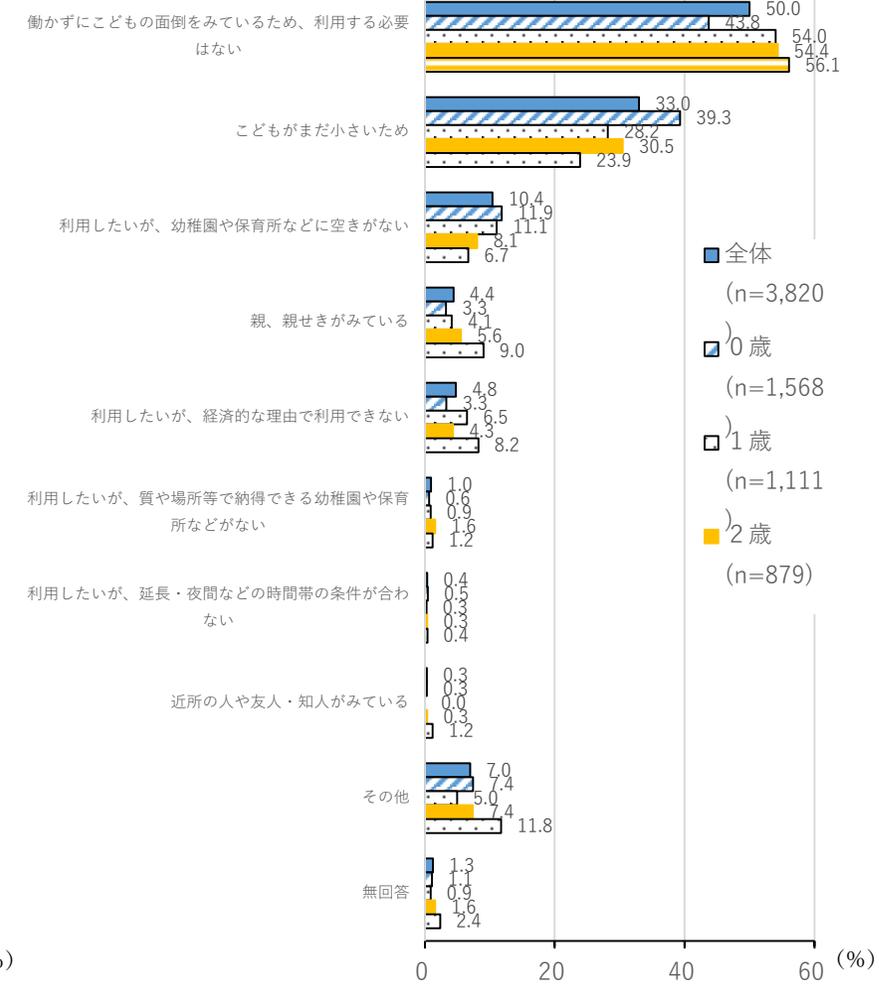
平日に子どもを預かる施設やサービスを利用していない最大の理由

- 「働かずに子どもの面倒をみているため、利用する必要はない」が46.6%で最も多く、次いで「子どもがまだ小さいため」が22.9%、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」が17.1%となっている。
- 子どもの年齢別で見ると、「働かずに子どもの面倒をみているため、利用する必要はない」は1・2歳で50%を超えて割合が高くなっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」が6.7ポイント高くなっており、「子どもがまだ小さいため」が10.1ポイント低くなっている。
- 年齢別で見ると、0歳で「子どもがまだ小さいため」が14.1ポイント低くなっており、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」が9.8ポイント高くなっている。また、3歳以上で「働かずに子どもの面倒をみているため、利用する必要はない」が12.3ポイント低くなっており、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」が6.3ポイント高くなっている。

平成30年調査

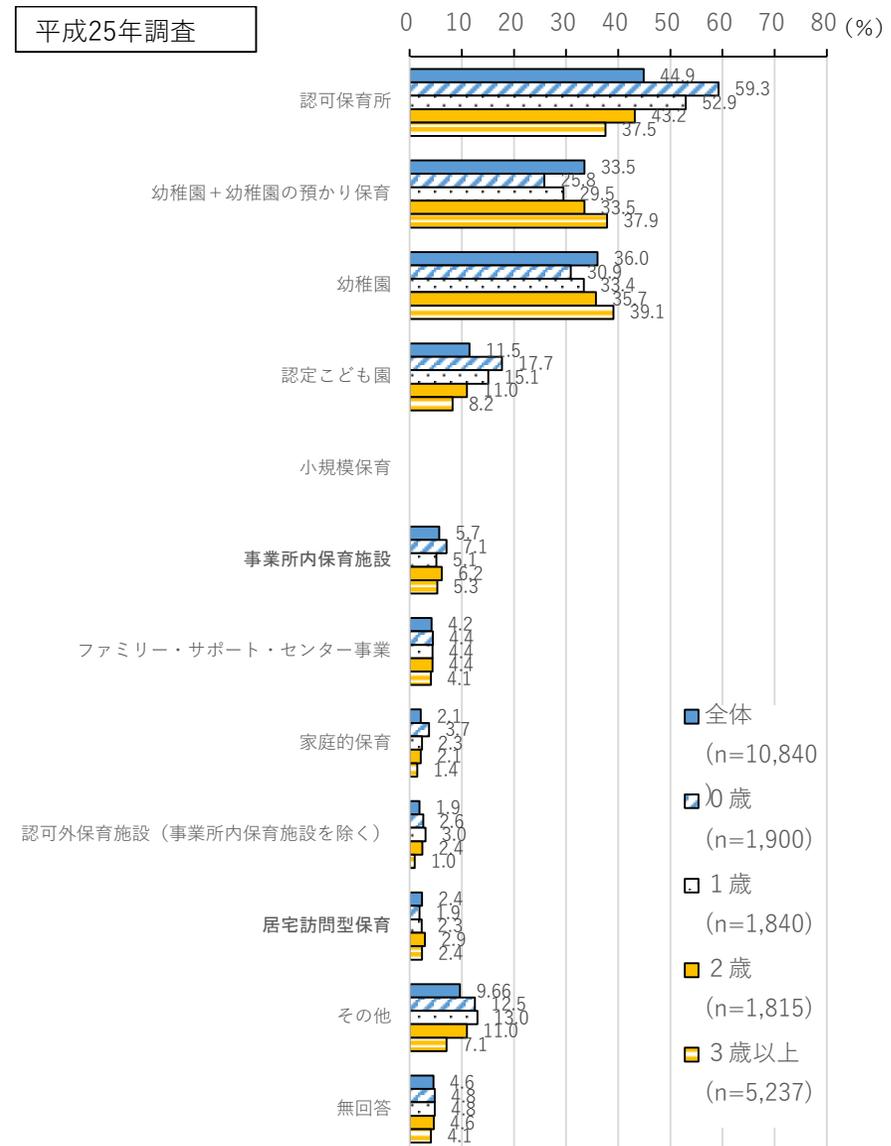
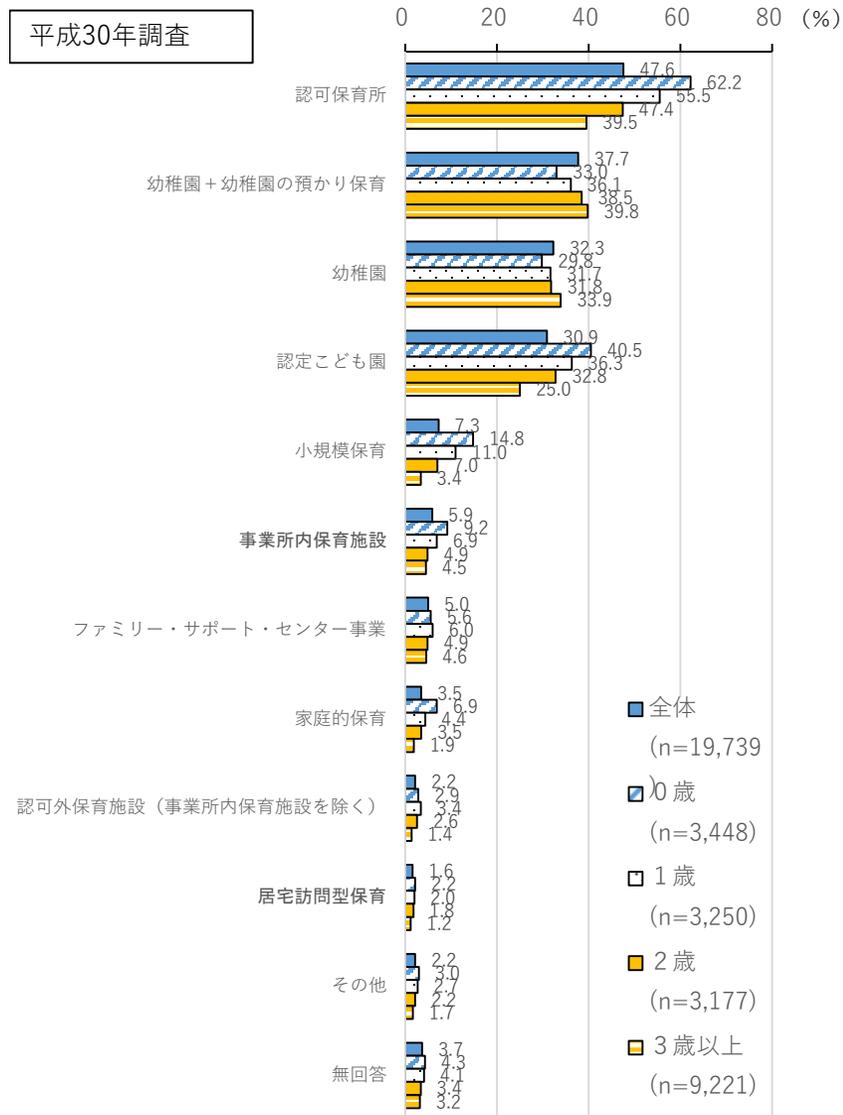


平成25年調査



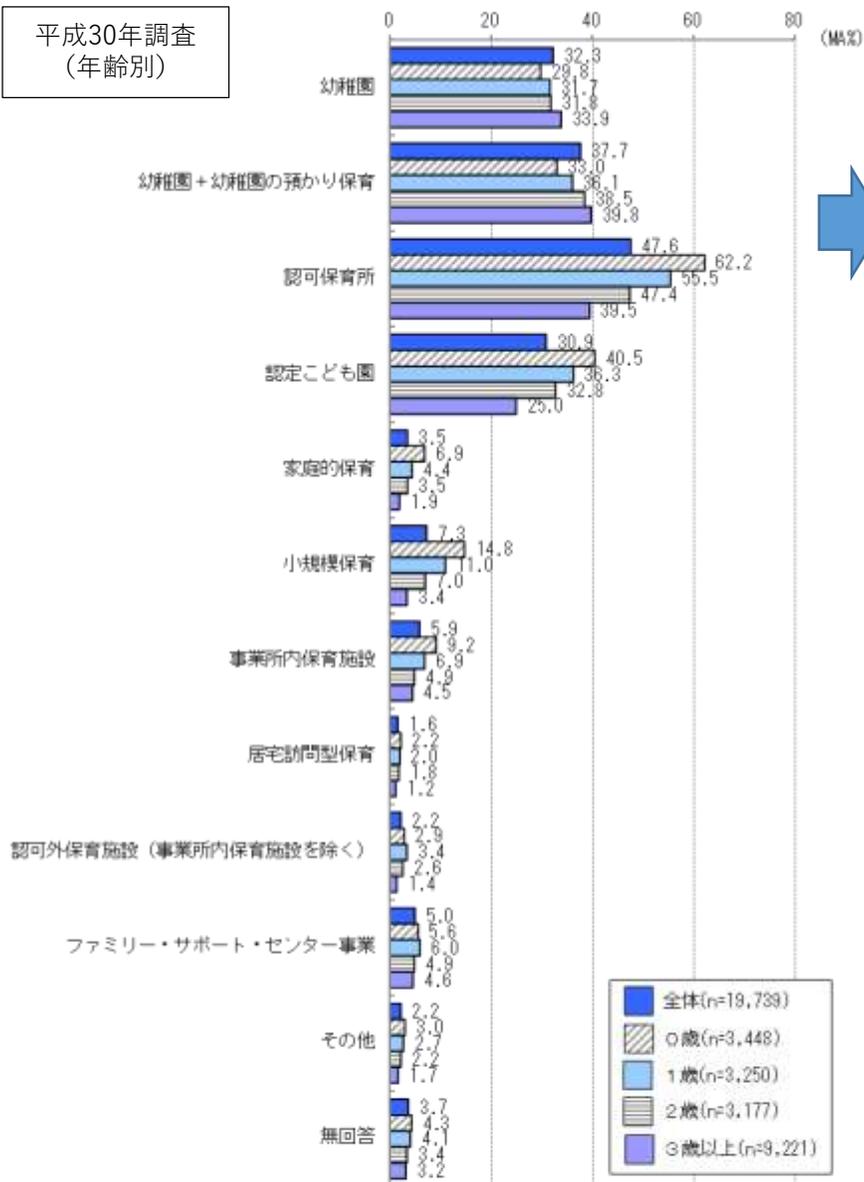
こどもを預かる施設やサービスの平日の定期的な利用希望①

- ▶ 平日の定期的な利用希望については、「認可保育所」が47.6%で最も多く、次いで「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が37.7%、「幼稚園」が32.3%となっている。
- ▶ こどもの年齢別でみると、「幼稚園」、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。



こどもを預かる施設やサービスの平日の定期的な利用希望②

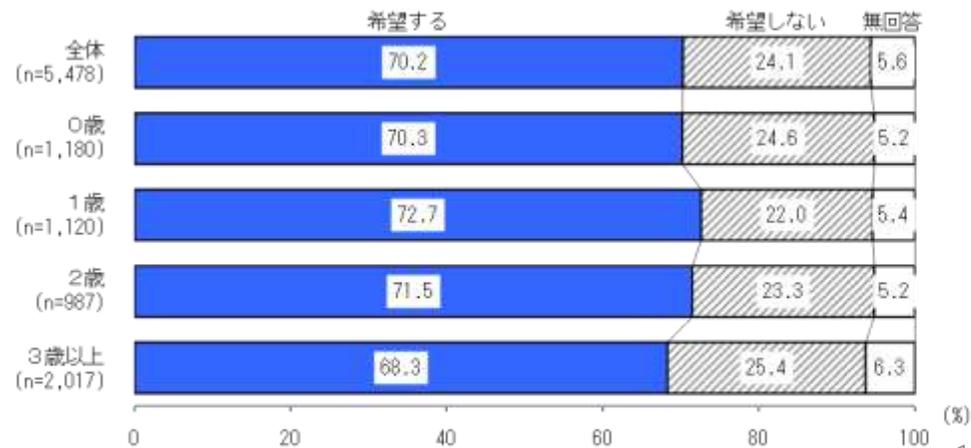
- ▶ 平日の定期的な利用希望については、「認可保育所」が47.6%で最も多く、次いで「幼稚園+幼稚園の預かり保育」が37.7%、「幼稚園」が32.3%となっている。
- ▶ こどもの年齢別でみると、「幼稚園」、「幼稚園+幼稚園の預かり保育」は年齢が上がるほど割合が高くなっている。



- 《内訳》『幼稚園』には「幼稚園+幼稚園の預かり保育」含む
- 『幼稚園』のみ希望 5,416人 (27.4%)
 - 『幼稚園』と他のサービスも希望 5,478人 (27.8%)
 - 『幼稚園』以外の他のサービスのみを希望 8,107人 (41.4%)
 - 無回答 738人 (3.7%)

幼稚園の強い利用希望の有無

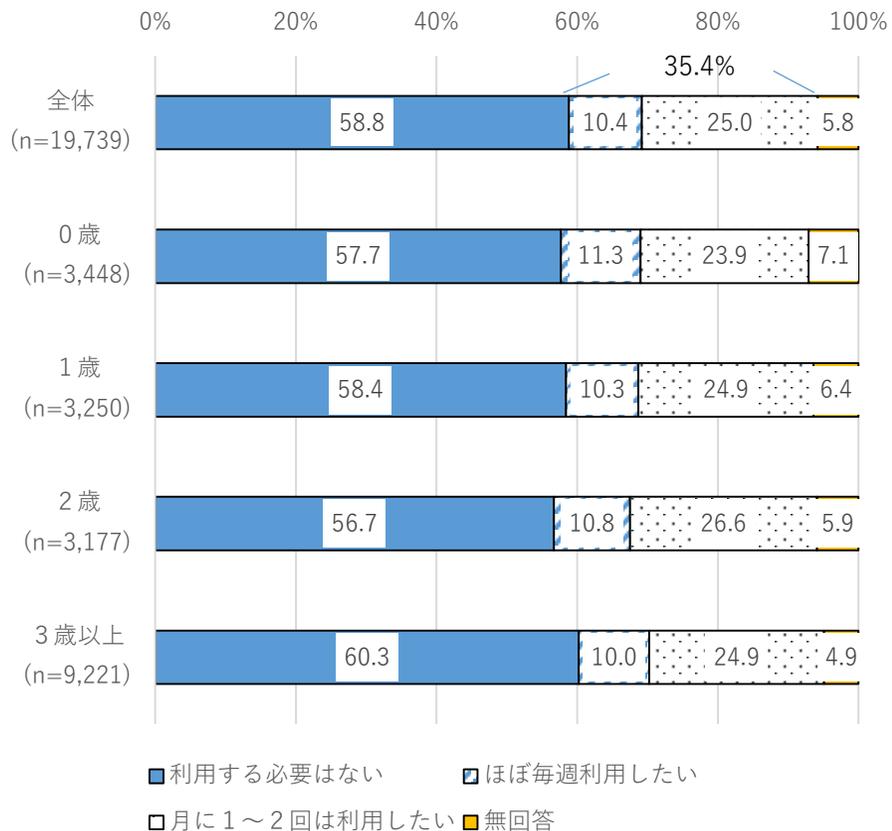
- ▶ 特に幼稚園の利用を強く希望するかについては、「希望する」が70.2%、「希望しない」が24.1%となっている。
- ▶ こどもの年齢別でみると、「希望する」は1歳(72.7%)で最も高く、次いで2歳(71.5%)となっている。



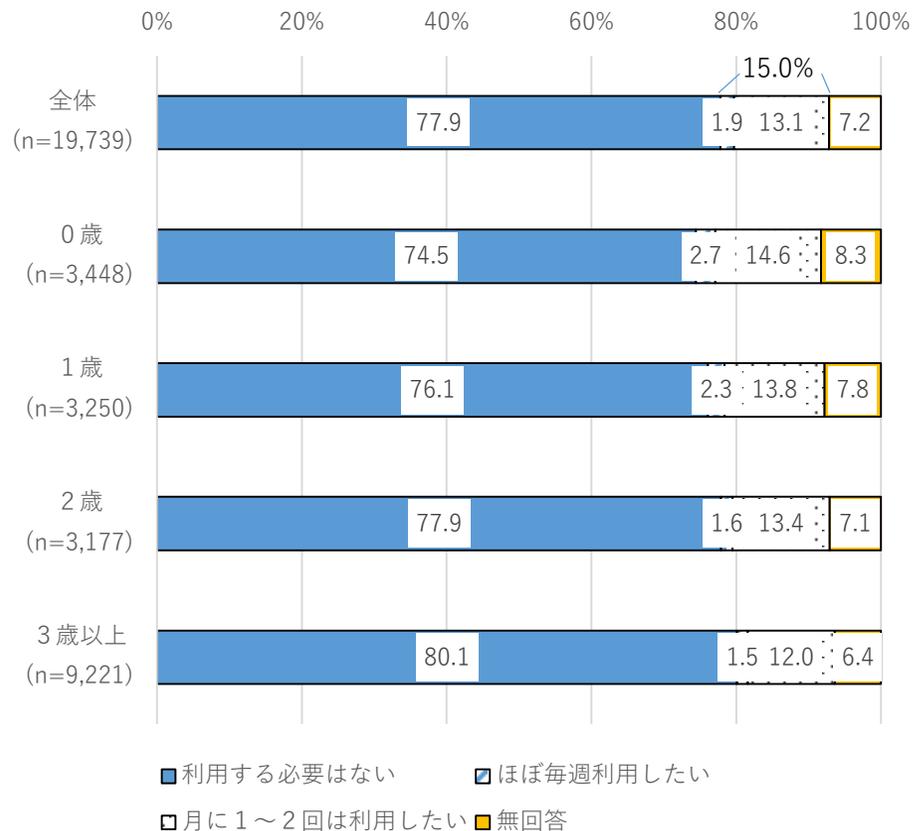
子どもを預かる施設やサービスの土曜日、日曜日・祝日の定期的な利用希望

- 土曜日の利用希望については、「利用する必要はない」が58.8%で最も多く、「ほぼ毎週利用したい」（10.4%）と「月に1～2回は利用したい」（25.0%）をあわせた『利用したい』は35.4%となっている。
- 日曜日・祝日の利用希望については、「利用する必要はない」が77.9%で最も多く、「ほぼ毎週利用したい」（1.9%）と「月に1～2回利用したい」（13.1%）をあわせた『利用したい』は15.0%となっている。

土曜日利用希望 (H30)

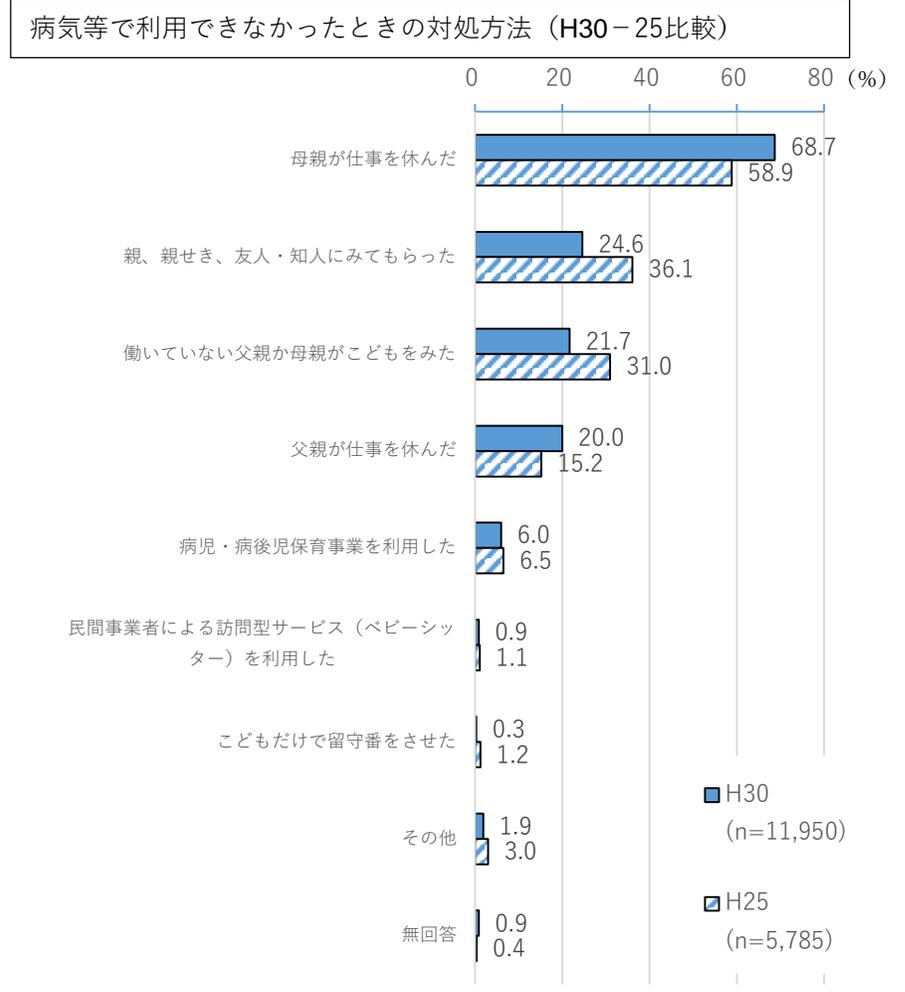
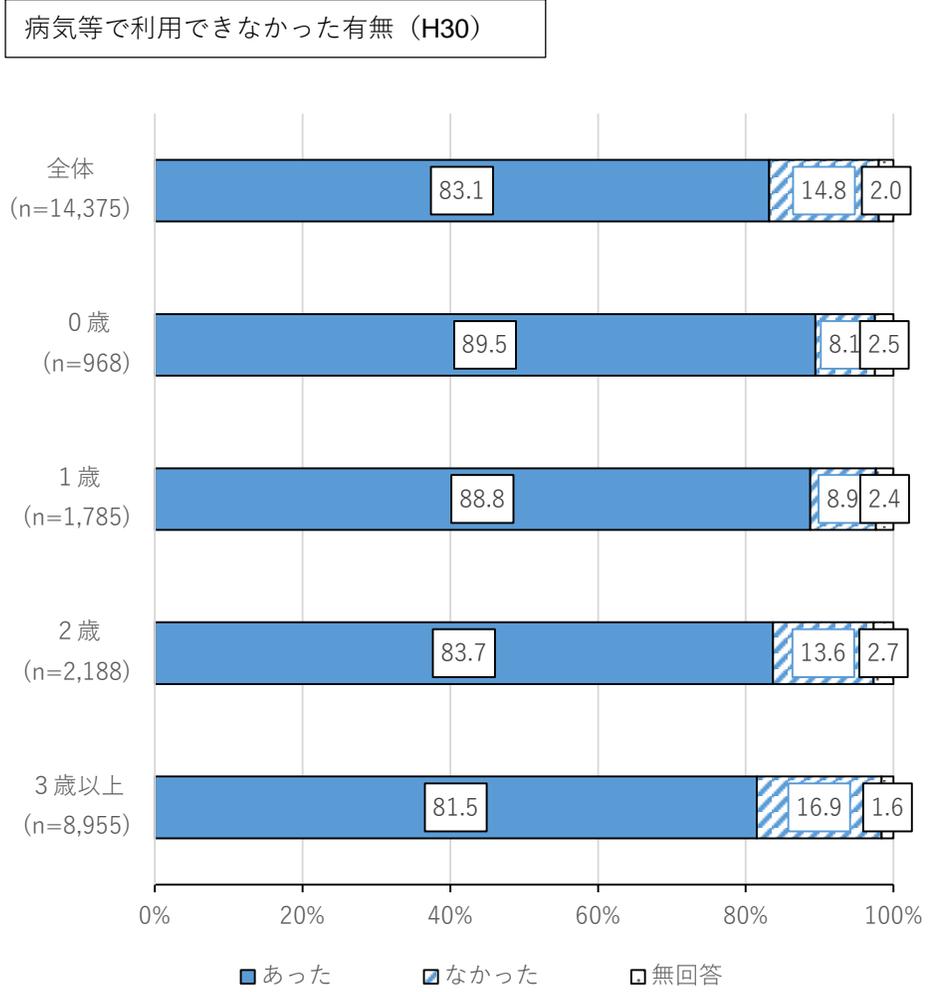


日・祝日利用希望 (H30)



こどもが病気等でサービスを利用できなかったことの有無

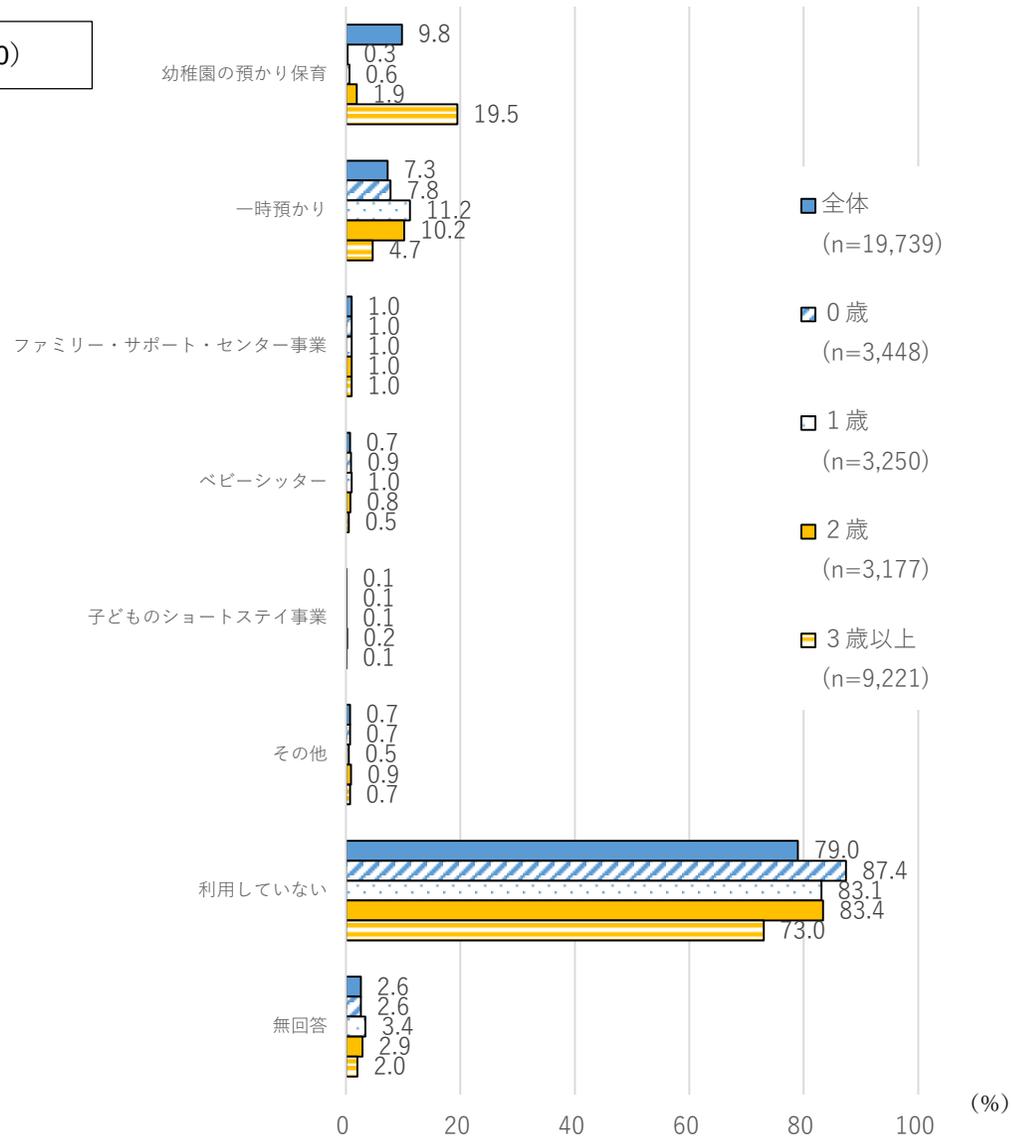
- こどもが病気等でサービスを利用できなかったことの有無については、「あった」が83.1%、「なかった」が14.8%となっている。
- こどもの年齢別で見ると、「あった」は0歳（89.5%）で最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなっている。
- こどもが病気等でサービスを利用できなかったことがあったと回答した人に、そのときの対処方法についてたずねると、「母親が仕事を休んだ」が68.7%で最も多く、次いで「親、親せき、友人・知人にみてもらった」が24.6%、「働いていない父親か母親が子どもをみた」が21.7%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「母親が仕事を休んだ」（9.8ポイント増）、「父親が仕事を休んだ」（4.8ポイント増）は高くなり、「親、親せき、友人・知人にみてもらった」（11.5ポイント減）、「働いていない父親か母親が子どもをみた」（9.3ポイント減）は低くなっている。



こどもを預かる施設やサービスの不定期な利用状況

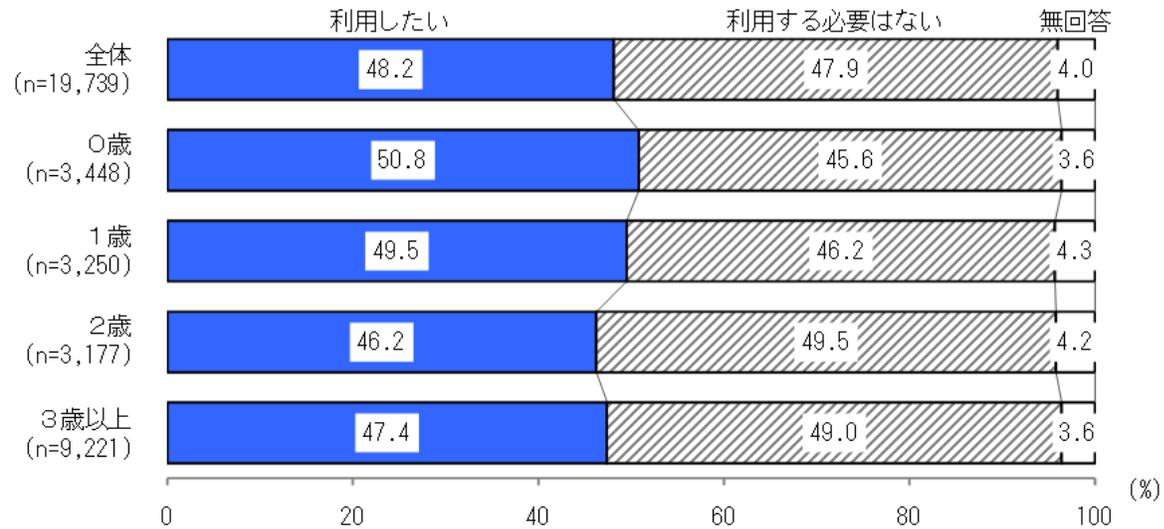
- 一時預かり等のサービスの利用状況については、「利用していない」が79.0%で最も多いが、利用した人では「幼稚園の預かり保育」が9.8%で最も多く、次いで「一時預かり」が7.3%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「幼稚園の預かり保育」は3歳以上（19.5%）で最も高く、「一時預かり」は1歳と2歳で10%程度となっている。

一時預かり等サービスの利用状況（H30）

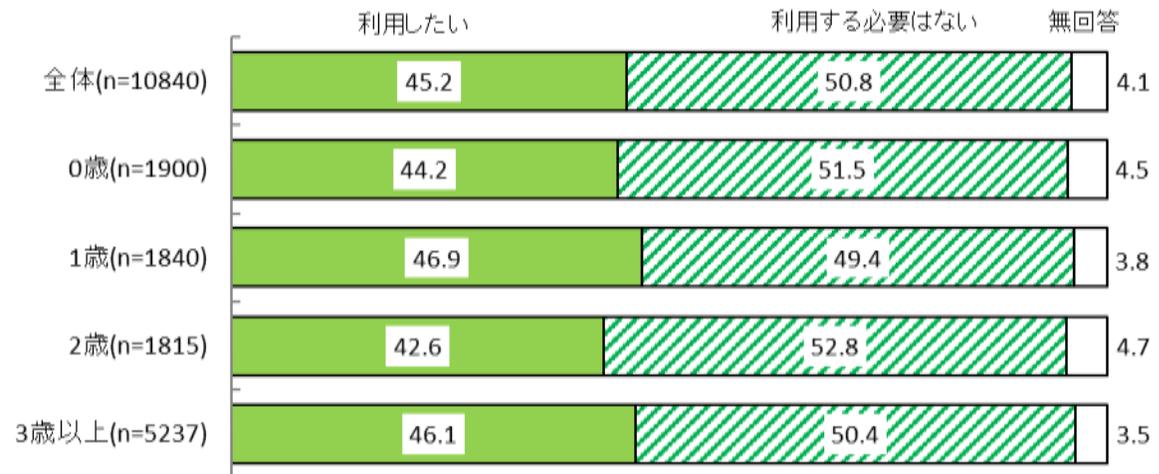


一時預かり施設やサービスの利用希望

- 一時預かり施設やサービスの利用希望については、「利用したい」が48.2%、「利用する必要はない」が47.9%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「利用したい」は0歳（50.8%）で最も高くなっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、0歳で「利用したい」が6.6ポイント高くなっている。



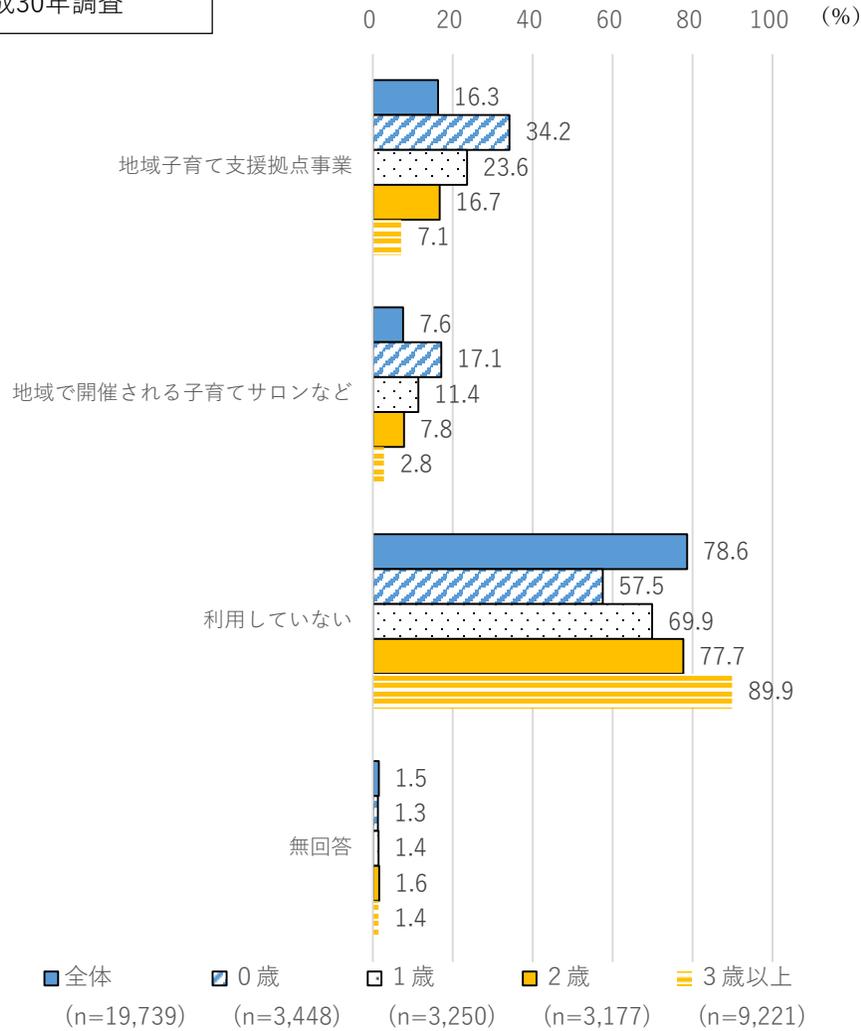
《参考》平成25年調査



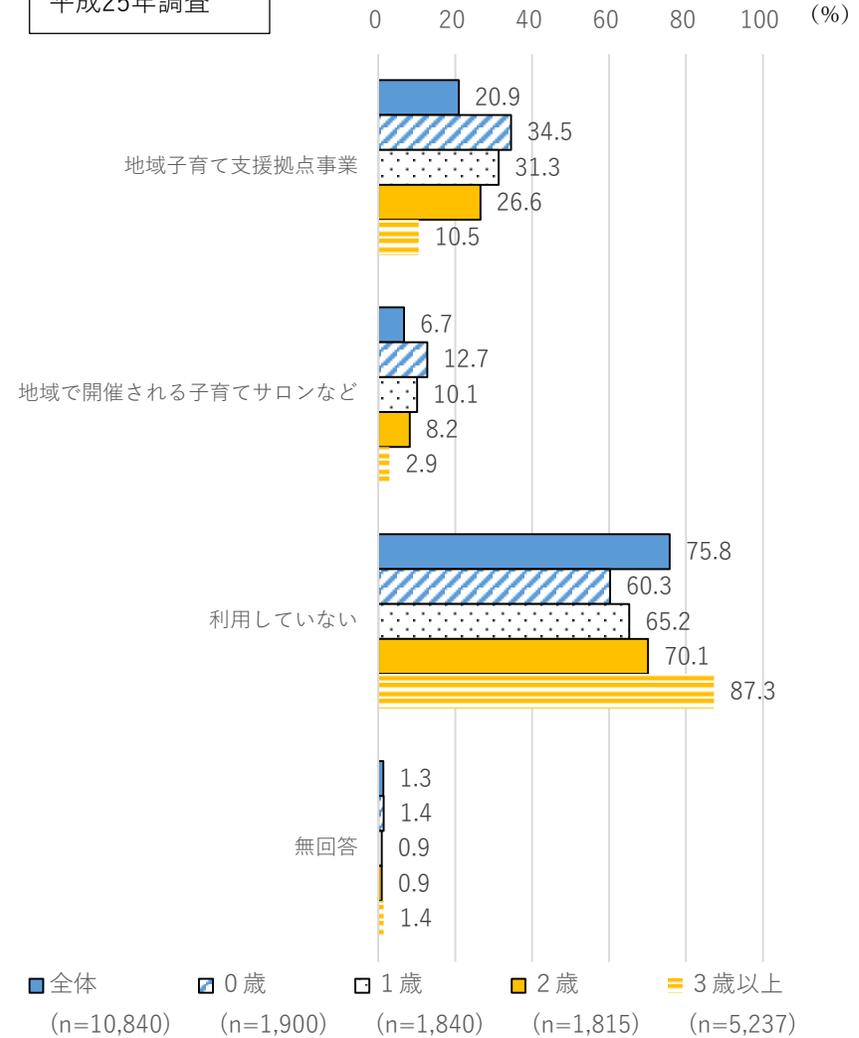
地域子育て支援拠点事業などの利用状況

- ▶ 地域子育て支援拠点事業などの利用状況については、「利用していない」が78.6%で最も多く、利用している人では「地域子育て支援拠点事業」が16.3%、「地域で開催される子育てサロンなど」が7.6%となっている。
- ▶ 平成25年調査の結果に比べ、地域子育て支援拠点事業（平成25年調査では「地域子育て支援センター、つどいの広場」）は1歳児で7.7ポイント低くなっている。

平成30年調査



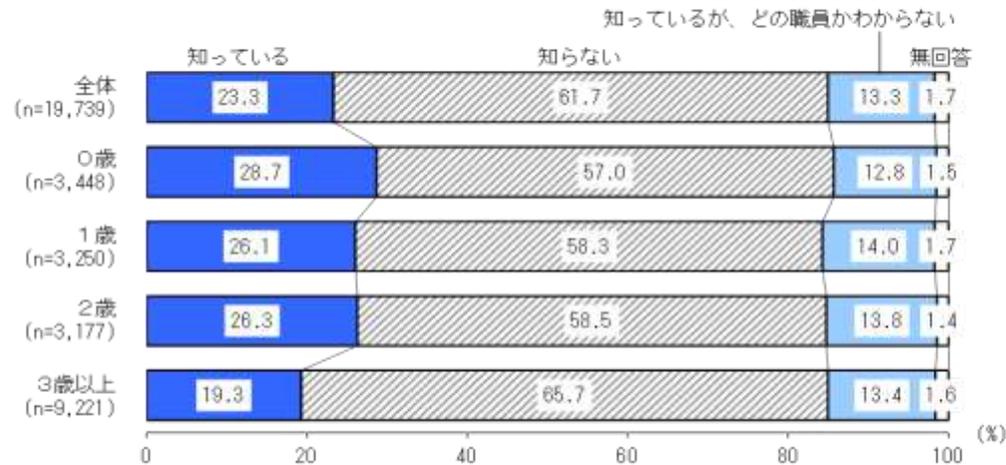
平成25年調査



利用者支援専門員の認知・利用状況・利用希望

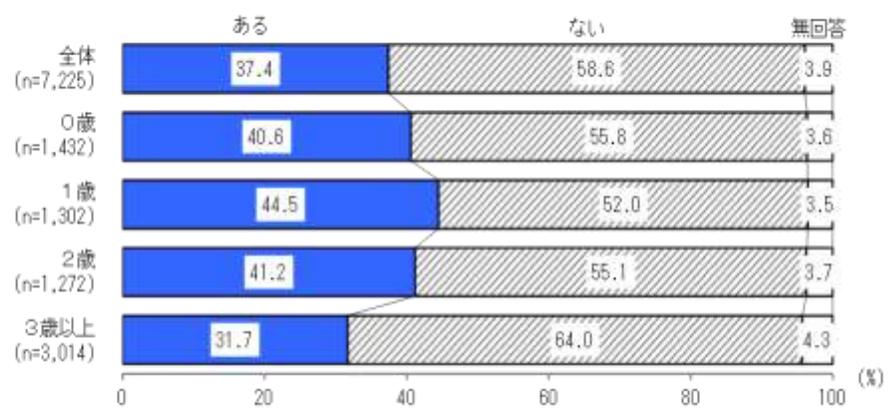
- 利用者支援専門員の認知状況については、「知らない」が61.7%で最も多く、次いで「知っている」が23.3%、「知っているが、どの職員かわからない」が13.3%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「知っている」は0歳（28.7%）で最も高く、3歳以上（19.3%）で最も低くなっている。

利用者支援専門員認知状況（H30）

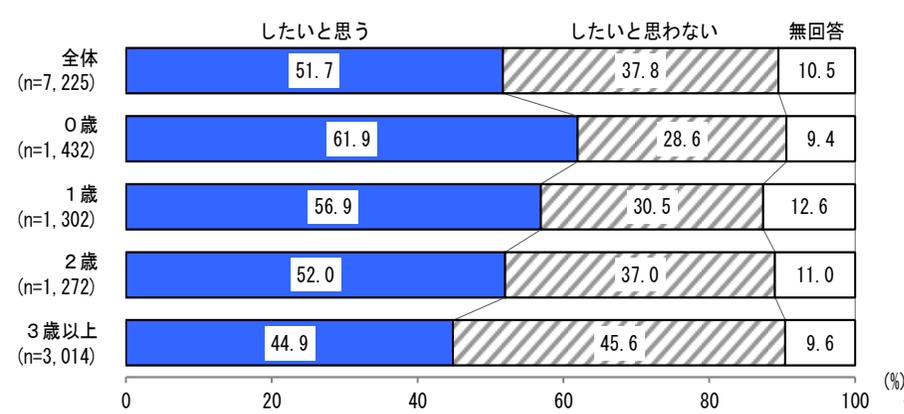


- 利用者支援専門員を知っていると回答した人に、利用者支援専門員に相談したり情報提供を受けたりしたことの有無についてたずねると、「ある」が37.4%、「ない」が58.6%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「ある」は1歳（44.5%）で最も高く、0～2歳で40%台を占めている。
- 今後、利用者支援専門員に相談したり情報提供を受けたりする希望については、「したいと思う」が51.7%、「したいと思わない」が37.8%となっている。
- こどもの年齢別でみると、「したいと思う」は0歳（61.9%）で最も高く、年齢が上がるほど割合が低くなっている。

専門員利用状況（H30）

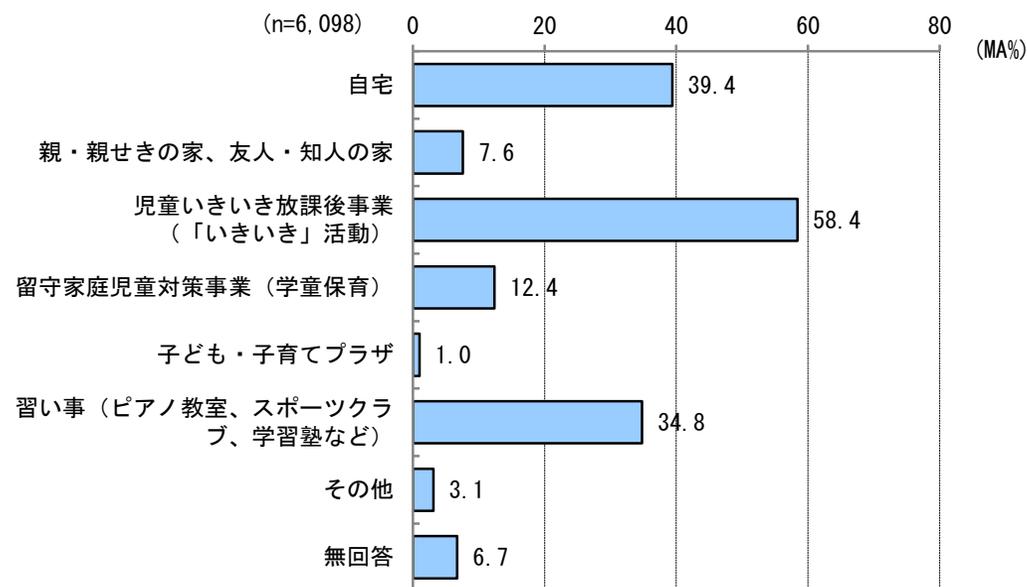


専門員利用希望（H30）

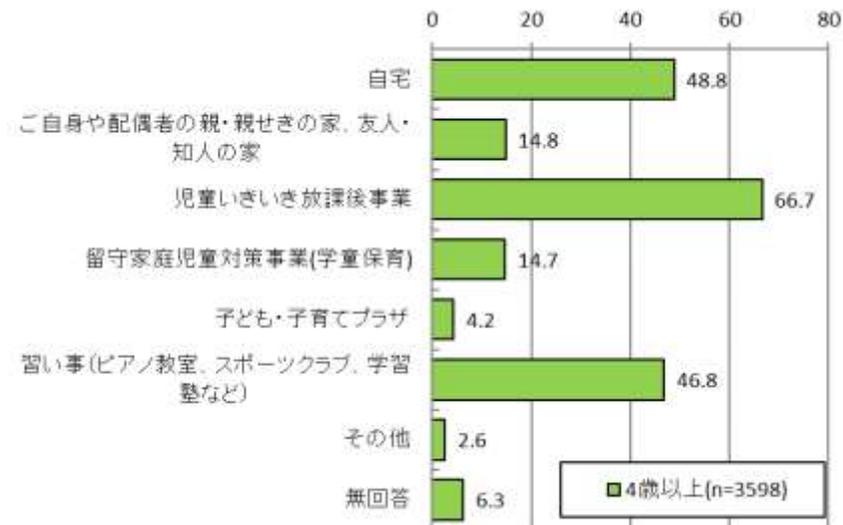


こどもが小学校低学年の間に、放課後過ごさせたい場所

- 4歳以上のこどもが小学校低学年の間に、放課後過ごさせたい場所については、「児童いきいき放課後事業（「いきいき」活動）」が58.4%で最も多く、次いで「自宅」が39.4%、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が34.8%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が12ポイント、「自宅」が9.4ポイント、「児童いきいき放課後事業」が8.3ポイント低くなっている。



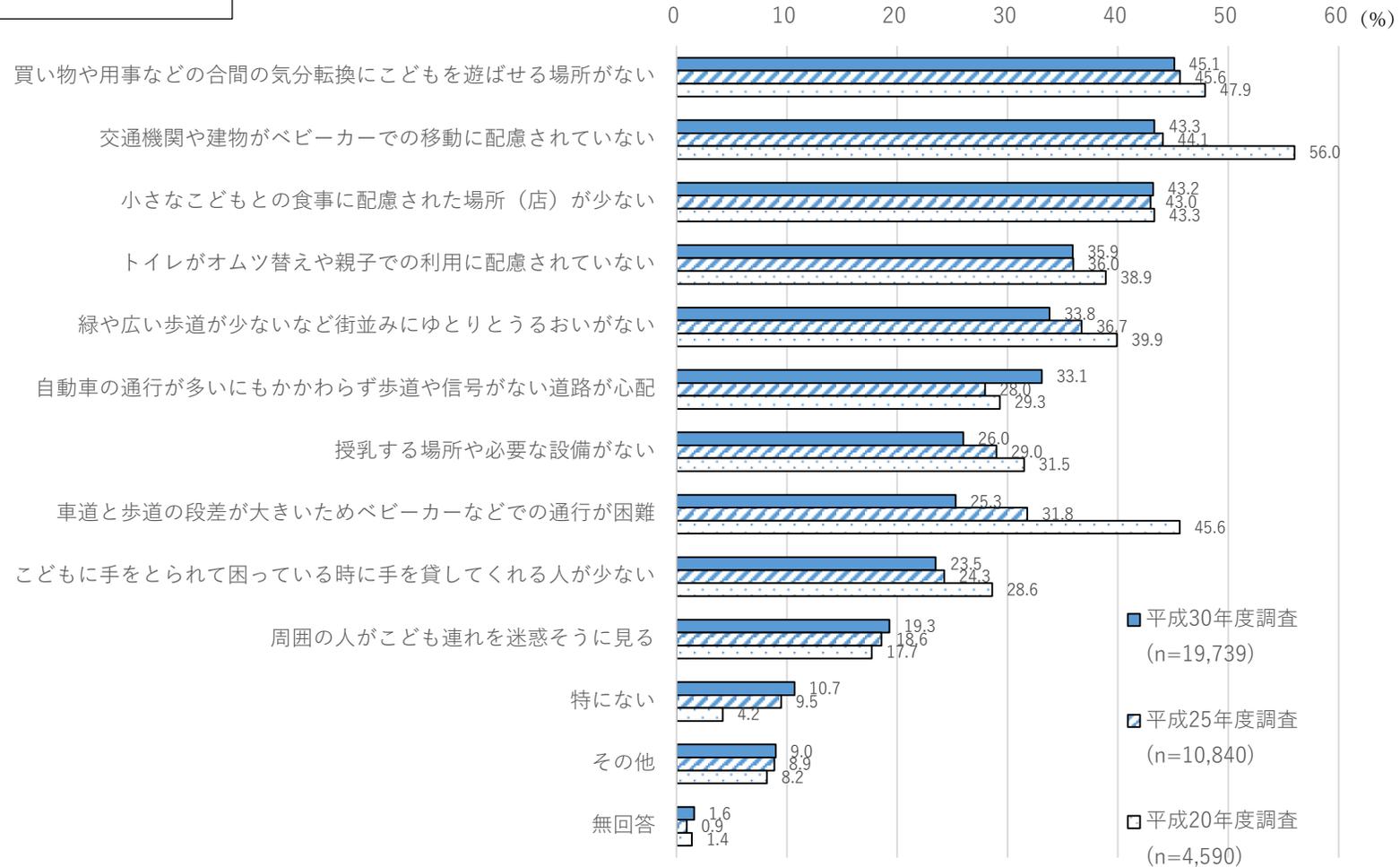
《参考》平成25年調査



こどもとの外出時に困ること

- ▶ こどもとの外出時に困ることについては、「買い物や用事などの合間の気分転換にこどもを遊ばせる場所がない」が45.1%で最も多く、次いで「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」が43.3%、「小さなこどもとの食事に配慮された場所（店）が少ない」が43.2%となっている。
- ▶ 平成25年調査の結果に比べ、「車道と歩道の段差が大きいためベビーカーなどでの通行が困難」（平成25年調査では「歩道の段差などがベビーカーなどでの通行の妨げになっている」）が6.5ポイント低くなっている。（改善している）

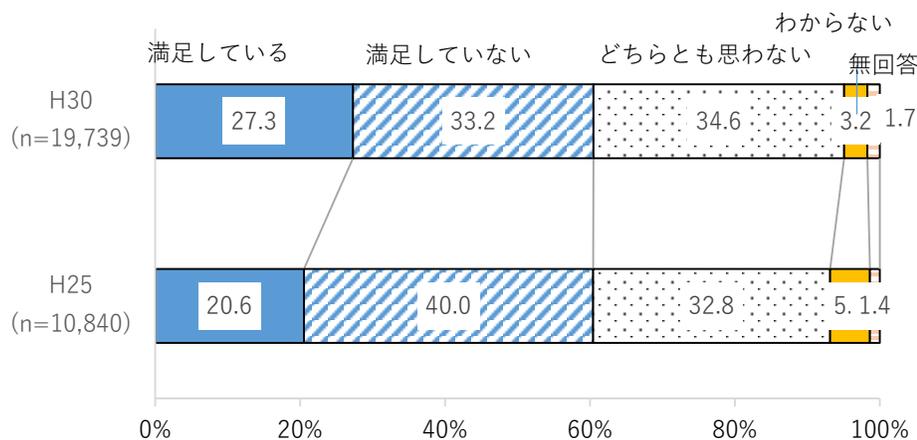
こどもとの外出時に困ること
(H30-25-20比較)



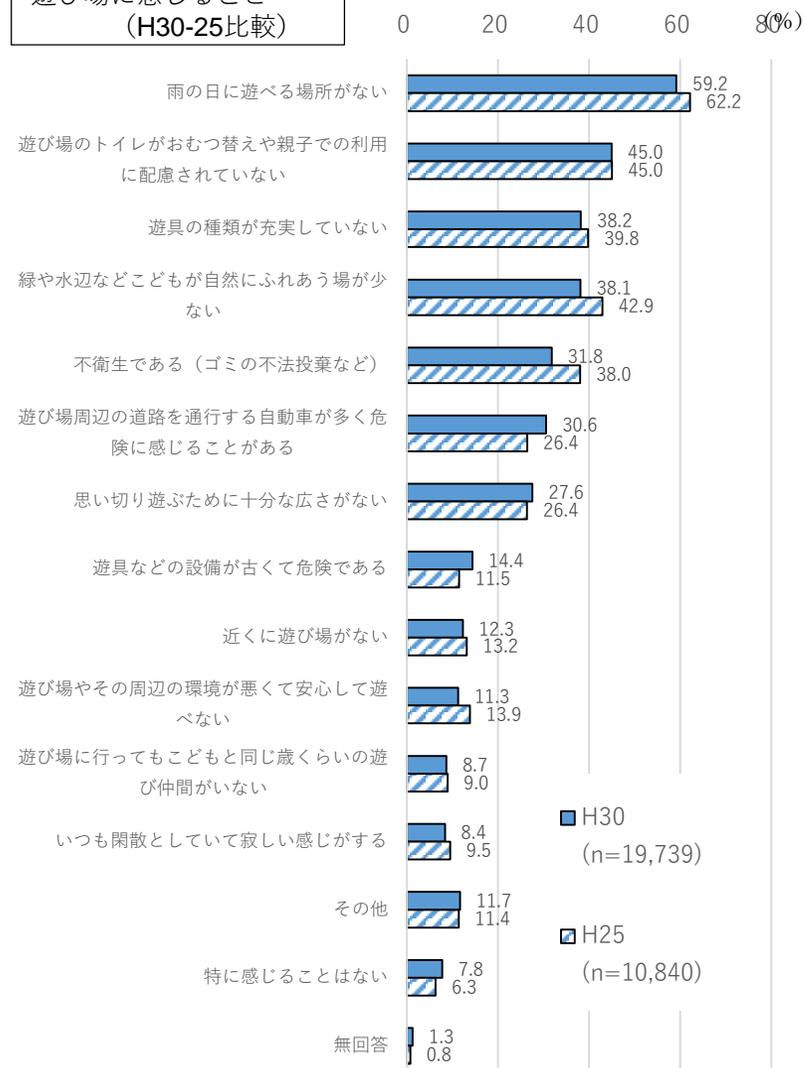
こどもの遊び場に関する満足度

- こどもの遊び場に関する満足度については、「満足している」が27.3%、「満足していない」が33.2%となっている。
- 平成25年調査の結果に比べ、「満足している」が6.7ポイント高くなっている。
- こどもの遊び場を感じることにについては、「雨の日に遊べる場所がない」が59.2%で最も多く、次いで「遊び場のトイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていない」が45.0%、「遊具の種類が充実していない」が38.2%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「不衛生である（ゴミの不法投棄など）」が6.2ポイント低くなっている（改善している）一方で、「遊び場周辺の道路を通行する自動車が多く危険を感じることもある」が4.2ポイント高くなっている（悪化している）。

遊び場満足度 (H30-25比較)



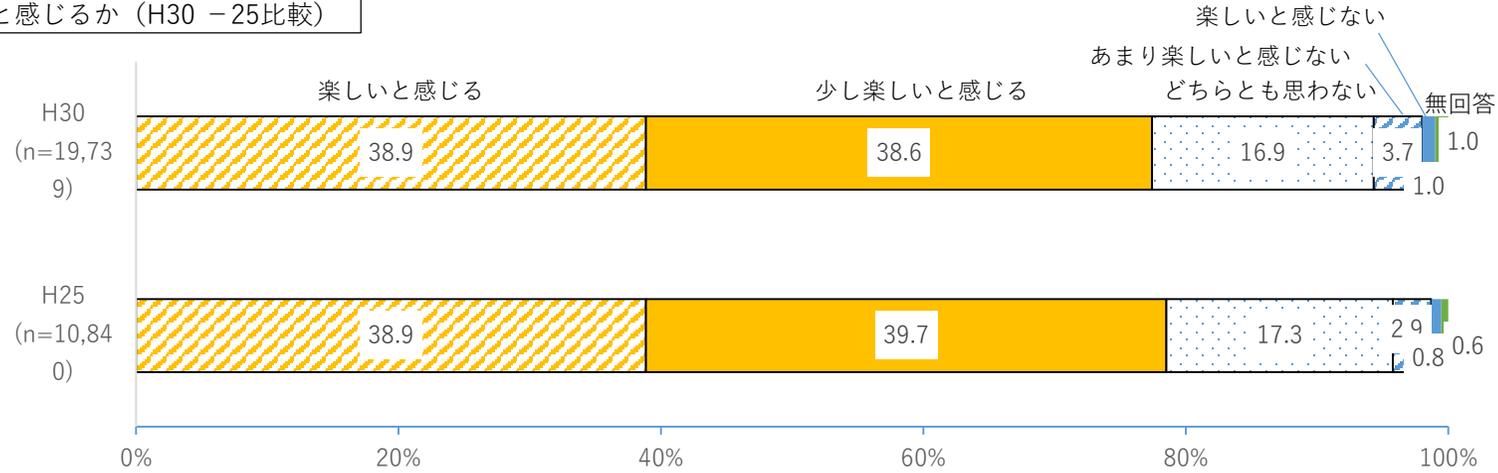
遊び場を感じることに
(H30-25比較)



子育てについての楽しさや負担感の程度

➤ 子育てを楽しんでいるかについては、「楽しいと感じる」が38.9%で最も多く、次いで「少し楽しいと感じる」が38.6%で、両者をあわせた『楽しいと感じる』は77.5%となっている。

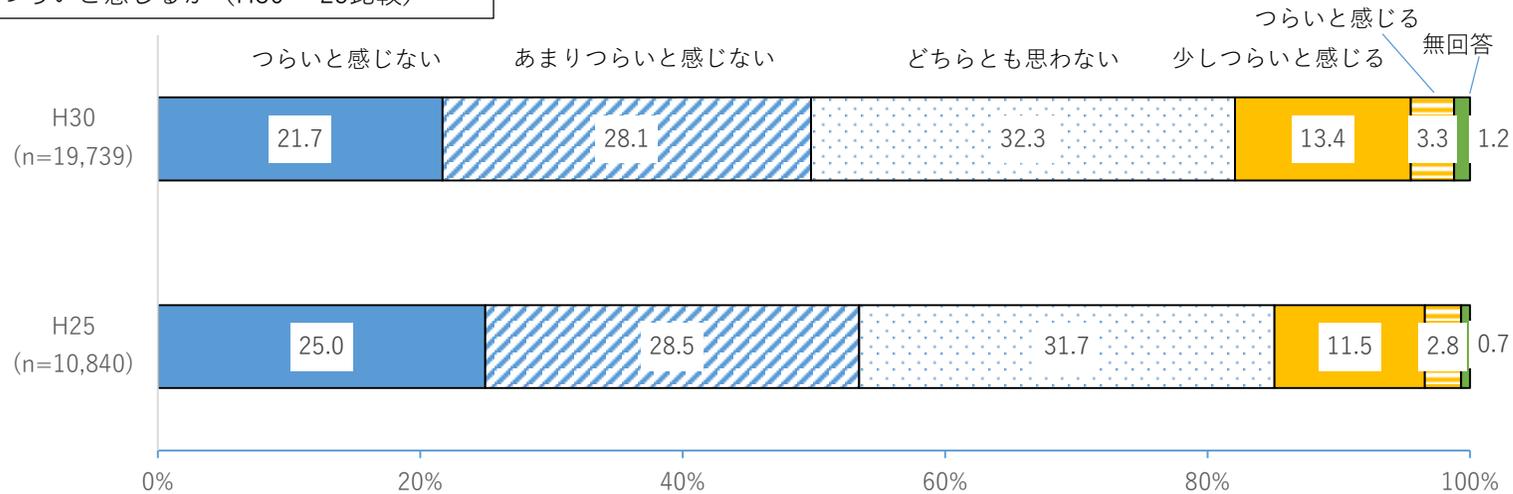
子育てを楽しんでいるか (H30 - 25比較)



➤ 子育てをつらいと感じるかについては、「どちらとも思わない」が32.3%で最も多く、次いで「あまりつらいと感じない」が28.1%で、「つらいと感じない」(21.7%)と「あまりつらいと感じない」をあわせた『つらいと感じない』は49.8%となっている。

➤ 平成25年調査の結果に比べて、『つらいと感じない』は3.3%低くなっている。

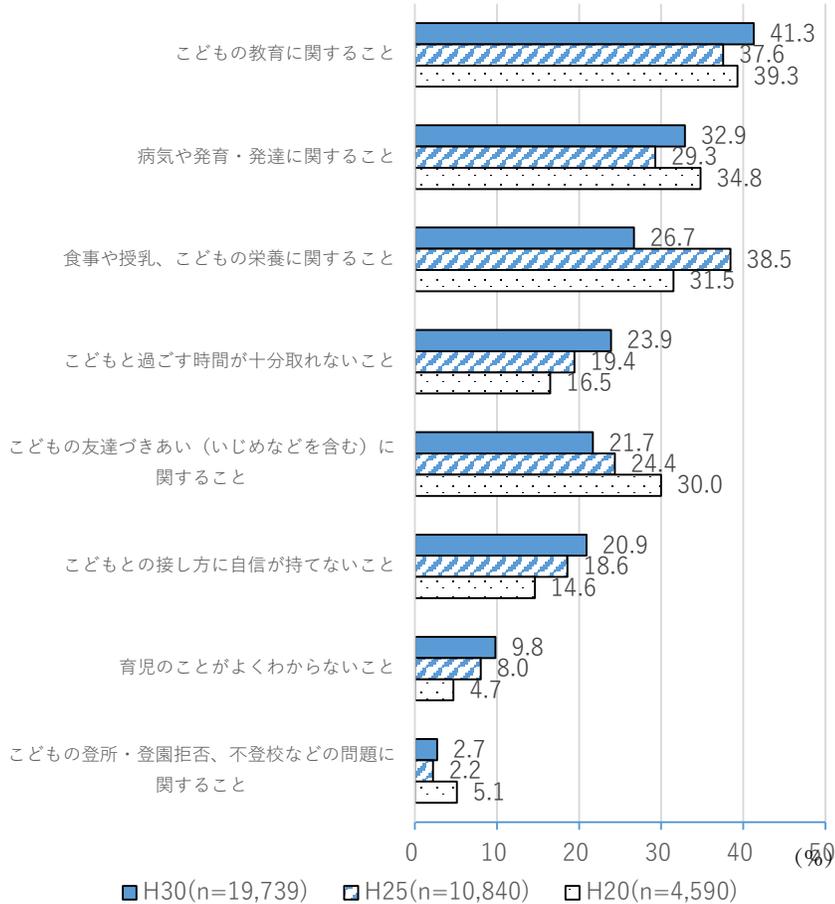
子育てをつらいと感じるか (H30 - 25比較)



子育てに関する悩み

- ▶ 子育てに関する悩みについては、「こどもの教育に関すること」が41.3%で最も多く、次いで「病気や発育・発達に関すること」が32.9%、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」が26.7%となっている。
- ▶ 平成25年調査の結果に比べ、「食事や授乳、こどもの栄養に関すること」（平成25年調査では「食事や栄養に関すること」）が11.8ポイント低くなっており、「こどもと過ごす時間が十分取れないこと」は4.5ポイント高くなっている。

子育てに関する悩み（H30 - 25 - 20比較）



- ▶ 保護者自身に関する悩みについては、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が44.8%で最も多く、次いで「子育てのストレスなどからこどもにきつくあたってしまうこと」が36.3%、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が35.3%となっている。
- ▶ 平成25年調査の結果に比べ、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」（7.8%増）が高くなっている。

保護者自身に関する悩み（H30 - 25 - 20比較）

